

緑岡詞林

第三十九号

『たむの岑の少将』略註	曹昇鉉・武居辰幸 1
	及川里美・粕谷剛史
	須田志穂理・土田麻莉絵
	金城ゆり
『梵灯庵主返答書』注釈Ⅲ	廣木一人・嘉村雅江 9
	寺尾麻里・熊田洋子
	中野瑛介・福井咲久良
『連歌八十体之書』翻刻と解題	寺尾麻里 70
『方丈記』論	津ノ井舞 86
—— 五大災厄の描写をめぐる ——	
青山日本院生研究会・活動報告	杉山和也 98

青山日文学院生研究会・活動報告

青山日文学院生研究会が二〇一四年二月六日を以て最終回を迎えた。本会は青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻の院生が中心となって運営を行い、参加者が各自の専門の枠を超えて研究成果を発表し合う研究会として二〇一一年三月に設立されたものである。この場を以て、本会のこれまでの活動報告を行うこととする。

まずはここで、簡単にこれまでの青山日文学院生研究会の活動内容を振り返ってみよう。本会では前期・後期各三回程度の例会と、毎年二回の大会（春季・秋季）を開催してきた。例会では毎回二名の発表者が、研究発表もしくは論文紹介を行い、特に年二回の大会に於いては本学の卒業生の他、非常勤、専任の先生方にも御講演もしくは御発表を行って頂いた。二〇一一年度には山本啓介先生（新潟大学）、大橋直義先生（和歌山大学〔当時、本学兼任講師〕）、安田尚道先生。二〇一二年度には若松伸哉先生（愛知県立大学）、大上正美先生。二〇一三年度には松本麻子先生（いわき明星大学）、佐伯真一先生、二〇一四年度には工藤健一先生（本学非常勤講師）に御登壇頂き、また第八回例会に於いては廣木一人先生にも御発表頂

青山日文学院生研究会・幹事 杉山 和也

いた。いずれも院生にとつて大変有意義な機会であった。また毎年、年度初めには《新入生ガイダンス企画》として、本学卒業生で現在古籍商として第一線で活躍されている大谷大先生に書誌学講座をお願いした。参加者全員が一点ずつ古書を手元に置き、実際に手で触れつつ調査の練習をするという贅沢な内容で毎回好評であった。この他、学外からも、第一三回例会には塩川和広氏（立教大学大学院生）を、最終回には加藤秀雄氏（国立歴史民俗博物館・機関研究員）を御招きして、発表を行って頂いた。更に、二〇一三年度春季大会にはハーバード大学の院生の Ethan Bushelle 氏、第一六回例会にはブリティッシュ・コロンビア大学の院生の Alexey Lushchenko 氏、そして最終回には本学日本文学科が学術提携を結んでいるコロンビア大学大学院東アジア言語・文化研究科の Mathieu Feil 氏といったように、積極的に海外の大学院生も御招きして御発表頂いた。或程度、国際的な研究の場であったとも言えるだろう。また、本会への来場者としては本学日本文学・日本語専攻の院生だけでなく学部生や他学科の学生、他大学の院生なども見受けられた。この内、特に学部生も積極的に参加していたことについては強調しておきたい。

その内の幾人かは本学大学院に進学している。従来学部生にとつて把握し辛かった大学院の様子を紹介する役割も、本会は果たして来たと云える。

研究会の運営については二〇一一年三月二七日に予定されていた第一回目の立ち上げの大会が東日本大震災の為に中止に追い込まれてしまうなど困難は多々あった。しかし、御陰様で設立以来の約四年間で通算二三回、会を開催することができた。以下はその具体的な活動内容である（敬称略。肩書きはそれぞれ発表当時のものとした）。内容からしても「参加者が各自の専門の枠を超えて、研究計画、研究成果を発表し合える研究交流の場としての機能を果たしてゆく」という当初の目的を、或程度叶えることができたと言えるのではないか。御協力下さった皆さまには、改めてこの場を借りて感謝を申し上げたい。そして、今後また何らかの形でこうした院生同士の研究発表、情報交換の場が設けられることを願うばかりである。

【1】 第一回 例会

- ・日時：二〇一一年四月二〇日（水）一八：二〇～
- ・会場：青山キャンパス・一一号館 一七二教室
- 〈研究発表〉 曹昇鉉（中古／博士前期）…

「『河海抄』における夕顔巻

——『伊勢物語』との関係を中心に——

〈研究発表〉 杉山和也（中世／博士後期）…

「ヌエの変貌」

【2】 第二回 例会

- ・日時：二〇一一年五月二五日（水）一八：〇〇～
- ・会場：青山キャンパス・一一号館 一七二教室
- 〈研究発表〉 小石原悠介（近代／博士前期）…

「横光利一「時間」論」

〈研究発表〉 岡田純子（日本語学／博士前期）…

「日本語の文法体系から見た複合辞

——複合副助詞の位置づけ——」

【3】 第三回 例会

- ・日時：二〇一一年六月二八日（火）一七：〇〇～
- ・会場：青山キャンパス・総研ビル 一四五〇五教室（科学実験室）
- 〈研究発表〉 及川早紀（近代／博士後期）…

「芸術至上主義からリアリズムへ

——佐藤春夫の小説手法の転換点——」

〈研究発表〉 嘉村雅江（中世／博士後期）…

「歌枕書の国名分類 ——歌枕「なご」に関して」

【4】 二〇一一年度 秋季大会

- ・日時：二〇一一年九月二四日（土）一四：三〇～
- ・会場：青山キャンパス・一一号館 一三〇教室

〈研究発表〉 大橋直義（中世／本学兼任講師）…

『水鏡』の方法と構想

〈研究発表〉 山本啓介（中世／新潟大学）…

「室町期歌合の新資料をめぐって」

——文明十七年十八番歌合

〈研究発表〉 網倉勲（近代／博士後期）…

「貝殻の叫び」

——水上瀧太郎「新聞記者を憎むの記」論考

【5】 第四回 例会】

・日時：二〇一一年一〇月二五日（火）一八：〇〇～

・会場：青山キャンパス・一〇号館一・二〇教室

〈研究発表〉 杉山和也（中世／博士後期）…

「日本に於ける鰐（ワニ）の認識」

〈研究発表〉 杉村千亜希（中古／博士後期）…

『更級日記』の文体にみる『源氏物語』の影響

【6】 第五回 例会】

・日時：二〇一一年一二月一九日（月）一七：三〇～

・会場：青山キャンパス・総研ビル一四六〇五教室

〈研究発表〉 曲揚（近代／博士前期）…

「宮沢賢治『風の又三郎』の戦時下での受容

——「童話作家」宮沢賢治の出発点

〈研究発表〉 多田知子（日本語学／科目等履修生）…

「一般化以前の連体形終止、いわゆる連体止めについて」

【7】 第六回 例会】

・日時：二〇一二年一月三一日（火）一七：〇〇～

・会場：青山キャンパス・一〇号館一・七二教室

〈研究発表〉 曹昇鉉（中古／博士前期）…

「宇多」的なものの継承

〈研究発表〉 西井弥生子（近代／博士後期）…

「交錯する『東京行進曲』」

【8】 二〇一一年度 春季大会】

・日時：二〇一二年三月三一日（土）一六：三〇～

・会場：青山キャンパス・一〇号館一・七一教室

〈研究発表〉 塚本飛鳥（近代／博士後期）…

「坂口安吾「閑山」論——「狸」と「放屁」

〈研究発表〉 富田絵美（中国史／本学大学院史学専攻博士後期）…

「六朝「再生説話」の編纂と受容」

〈講演〉 安田尚道（本学教授）…

「イザナキ・イザナミの神話と小正月の行事」

【9】 第七回 例会】

・日時：二〇一二年四月二六日（木）一八：一〇～

・会場：青山キャンパス・一〇号館一・七一教室

〈論文紹介〉 杉山和也（中世／博士後期）…

増尾伸一郎「交錯する〈羽衣〉伝承

——二十世紀初期の東アジアにおける

比較研究をめぐって——」

（堀池信夫編『知のユーラシア』明治書院、二〇一一年所収）

〈講座〉 大谷大（本学卒業生）…

《新入生ガイダンス企画》『実践的書誌学講座（超初級編）』

〔10〕 第八回 例会 〕

・日時…二〇一二年六月五日（火）一八…一〇〇

・会場…青山キャンパス・総研ビル一四六〇五教室

〈研究発表〉 岡田純子（日本語学／博士前期）…

「副助詞の歴史的変遷 古代語から現代語に至るまで」

〈研究発表〉 廣木一人（本学教授）…

「韻字和歌」ということ

〔11〕 第九回 例会 〕

・日時…二〇一二年七月二四日（火）一六…〇〇〇

・会場…青山キャンパス・一七号館一七六〇一教室

〈論文紹介〉 及川早紀（近代／博士後期）…

井上健「佐藤春夫とエドガア・ポオ」

（大谷女子大学志学会編『大谷女子大学紀要』

一二卷一号、一九七七年九月所収）

〈研究発表〉 高村圭子（中世／博士後期）…

「日本における「天」の思想の変容

——反逆の物語としての平家物語——」

〔12〕 二〇二二年度 秋季大会 〕

・日時…二〇二二年九月三〇日（日）一四…三〇〇

・会場…青山キャンパス・総研ビル一四六〇三教室

〈研究発表〉 萬処恵（近代／博士後期）…

「矢田津世子『家庭教師』に於ける女性と異郷」

〈研究発表〉 杉山和也（中世／博士後期）…

「日本に於ける鯨鯢の認識」

〈研究発表〉 若松伸哉（愛知県立大学）…

「グロテスクな愛——坂口安吾「紫大納言」

〔13〕 第一〇回 例会 〕

・日時…二〇二二年一〇月三一日（水）一七…〇〇〇

・会場…青山キャンパス・一七号館一七三〇一教室

〈研究発表〉 武居辰幸（中古／博士前期）…

「蓬生卷の語りの構造」

〈研究発表〉 杉山和也（中世／博士後期）…

「キカイガシマとイオウガシマの認識の変遷

——島名の語誌を手掛かりとして——」

〈研究発表〉 帆苅基生（近代／博士後期）…

「松本清張「ゼロの焦点」試論」

【14】 二〇二二年度 春季大会 【】

・日時：二〇二二年三月二七日（水） 一四：三〇～

・会場：青山キャンパス・一七号館一七三〇一教室

〈研究発表〉 李満紅（早稲田大学大学院博士後期／本学学部卒）

『懐風藻』の言志

〈研究発表〉 網倉勲（近代／博士後期）

「水上瀧太郎「サラリーマン小説」の展開」

〈研究発表〉 大上正美（本学教授）

「嵯康「明胆論」について

——嵯康の思惟の原型をめぐる二、三のこと——

【15】 第二一回 例会 【】

・日時：二〇二二年五月一日（火） 一八：四〇～

・会場：青山キャンパス・一七号館一七七一教室

〈講座〉 大谷大（本学卒業生）

『新入生ガイダンス企画』『実践的書誌学講座（超初級編）』

【16】 第二二回 例会 【】

・日時：二〇二二年六月一日（火） 一八：四〇～

・会場：青山キャンパス・一七号館一七四〇教室

〈研究発表〉 高村圭子（中世／博士後期）

『平家物語』における『天』の思想

——延慶本を中心に——

〈論文紹介〉 杉山和也（中世／博士後期）

雲藤等「南方熊楠史料集の問題

——二つの全集を中心として——

『熊野』一四二号、二〇二二年五月所収

【17】 第二三回例会 【】

・日時：二〇二二年七月二五日（木） 一八：三〇～

・会場：青山キャンパス・一七号館一七七一教室

〈資料紹介〉 塩川和広（立教大学大学院博士後期）

「青山学院大学図書館蔵『恵比寿大黒』絵巻」

〈研究発表〉 塚本飛鳥（近代／博士後期）

「婦人雑誌『女性』の中の「春は馬車に乗って」

【18】 二〇二二年度 秋季大会 【】

・日時：二〇二二年一〇月二六日（土） 一五：三〇～

・会場：青山キャンパス・一七号館一七七一教室

〈研究発表〉 曲揚（早稲田大学大学院博士後期）

／本学研究科修了生

「宮沢賢治「風の又三郎」作品解説

——隙間によって生れた作品——

〈研究発表〉 杉山和也（中世／博士後期）

「近代日本に於ける〈フィロロギ〉」受容の一側面

——高木敏雄の『文獻学』をめぐる——

〈研究発表〉松本麻子（いわき明星大学）：

「磐城平城主、内藤義概の和歌について」

【19】 第四回 例会】

・日時：二〇一三年二月一日（水）一八：〇〇～

・会場：青山キャンパス・一一号館 一一七教室

〈資料紹介〉中野瑛介（中世／博士前期課程）：

『蜜蠶抄』

〈研究発表〉杉村千亜希（筑波大学附属駒場中・高等学校教諭）：

「文学研究はどのように国語教育に資することが出来るか」

【20】 二〇一三年度 春季大会】

・日時：二〇一四年三月三〇日（日）一三：〇〇～

・会場：青山キャンパス・一一号館 一一七教室

〈研究発表〉曹昇鉉（中古／博士前期）：

「カタリ」と「ハナシ」について

〈研究発表〉七戸音哉（明治大学大学院文学研究科博士前期

／本学卒業生）：

「白居易における陶淵明受容の意味

——「微陶潜體詩」の方法を巡って——」

〈研究発表〉寺尾麻里（中世／博士前期）：

『連歌八十体之書』について

——梵灯庵とその周辺——

〈研究発表〉Ethan Bushelle（ハーバード大学大学院

東アジア言語文化学科博士後期）：

「唱導と王権——得長寿院供養説話の再考」

〈研究発表〉佐伯真一（本学教授）：

『倭国軍記』のこと——新資料と向き合う——」

【21】 第五回 例会】

・日時：二〇一四年四月二三日（火）一八：三〇～

・会場：青山キャンパス・一一号館 一一七教室

〈講座〉大谷大（本学卒業生）：

『新入生ガイダンス企画』実践的書誌学講座（超初級編）

【22】 第一六回 例会】

・日時：二〇一四年五月一三日（火）一八：三〇～

・会場：青山キャンパス・一一号館 一一七教室

〈資料紹介〉Alexey Lushchenko

（ブリティッシュ・コロンビア大学大学院博士後期）：

『『平家物語評判秘伝抄』の歴史的・思想的背景、内容、と読者

——『平家物語』近世的享受の一面——」

〈研究発表〉佐藤織衣（博士前期）：

「戦時下から戦後占領期の国語教科書における『萬葉集』

【23】 最終回】

・日時：二〇一四年二月六日（土）一四：〇〇～

・会場：青山キャンパス・一号館一七二教室

〈研究発表〉 杉山和也（中世／博士後期）…

「近代日本に於ける〈国文学〉研究の黎明と

カール・フロレーンツ」

〈研究発表〉 加藤秀雄（国立歴史民俗博物館 機関研究員）…

「高木敏雄と南方熊楠往復書簡の研究

——民俗学の発生をめぐる一考察」

〈研究発表〉 Mathieu Felt（ロロンビア大学大学院東アジア言語

・文化研究科博士後期課程）…

「テキストとパラテキスト ——『日本紀竟宴和歌』と

『日本書紀私記』から見る『日本書紀』の享受史」

〈研究発表〉 網倉勲（本学研究科修士課程）…

「水上瀧太郎の『三田文学』

——雑誌復活の経緯と研究の視点——」

〈研究発表〉 工藤健一（本学非常勤講師）…

「開発をめぐる言説

——歴史学で「自然」を扱うために——」

（すぎやま・かずや／本学大学院博士後期課程）

『緑岡詞林』投稿規程

一、青山学院大学日文学院生の会会員及び、『緑岡詞林』賛助会会員が、本誌に投稿することができる。

ただし、その他でも会員の依頼があれば、寄稿することができる。

一、内容は、研究論文またはそれに準ずるもの（翻刻、資料紹介、年譜、評伝等を含む）であれば形式を問わない。

一、原稿の長さは規定しない。

一、投稿希望者は、十一月末日までに論文題目を届け出、翌年二月十五日までに論文を提出すること。

一、執筆者には本誌二部及び抜き刷り三十部を進呈する（これ以上は実費負担）。

編集 日文学院生の会

『緑岡詞林』 第三十九号

発行日 平成二十七年三月三十一日

編集者 青山学院大学

日文学院生の会

住所 東京都渋谷区渋谷4-4-25

印刷 (有) 遠藤印刷

非売品

Ryokkô Shirin

No.39

CONTENTS

Note slightly on "Tonomine-no-Shosho"	CHO Sunghyon	1
	TAKEI Tatsuyuki	
	OIKAWA Satomi	
	KASUYA Tsuyoshi	
	SUDA Shiori	
	TSUCHIDA Marie	
	KINJO Yuri	
Note on "Bontouansyu Hentousyo" (3)	HIROKI Kazuhito	9
	KAMURA Masae	
	TERAO Mari	
	KUMADA Shoko	
	NAKANO Eisuke	
	FUKUI Sakura	
A reprint and a report of "Rengachijittei no syo"	TERAO Mari	70
A Study of "Hojoki":Concerning the desiction of the Five Great Disaster	TSUNOI Mai	86
A Report of Aoyama Nichibun Insei Kenkyukai	SUGIYAMA Kazuya	98